



「みんなで考えよう! 不登校」講演抄録

母親として腹をくくった日

母親 山内早智子さん(仮名)

まだやり直せる、どこかに通わせなきゃ

焦れば焦るほど空回りして行く

現在、高校3年生の長女がおりまして、小学6年生のときに不登校になりました。長女が通っていた小学校は各学年1クラスしかない小規模校でしたので、高学年になるにつれ、友だちつきあいの変化など、いろいろあったんだろうなあと思っていました。

ただ、本人は行きたくない理由についていっさい話さなかったのが、本当のところはよくわかりません。ただ、さほど心配もしてな

かったんです。中学校に上がれば環境も変わるし、自然と行けるようになるだろうと軽く考えていたんです。ところが「地元の中学校には行きたくない」と急に言い出したので、あわてて学校を探し、都内の私立中学校になんとか入学することができました。でも、電車通学というハードルが高かったのか、6月からパタッと行かなくなりました。

夫は単身赴任中でしたし、私もついぶん落ち込んでいたんですが、そんなときに出会ったのが「ネトネット」でした。子どもが不登校になると、親はいろいろ調べ物をすると思いますが、その際にどこにつながるか、これが重要なポイントだと思います。

いろいろ調べているうち、「東京ニューレ葛飾中学校」の存在を知りました。「不登校であること」が入学条件というユニークな学校で、私も見学に行き、「ここなら通えるんじゃないか」と思いました。今ならまだやり直せる」という焦りが私のなかにあったんです。

長女は、というと、私のすすめに積極的に乗ってきただけではありませんでした。が、「行ってみる」と言うので入学手続きをしました。「これでもう大丈夫だ」と思ったのもつかの間、初日に行ったら、学校に行こうとしないんです。こまごまでくるとさすがの私も困惑しました。「前の中学はイヤだ」と言っていたよね。「行ってみるって自分でも言ったのに」「私が子どもだったら通いたいと思えるくらい良い学校なのに、何がイヤなの?」と、いろんな思いがつきつきとあふれてくるんです。

「今ならわかる 親子のズレ」
何が良くなかったのか、今ならばわかるんです。長女は「ここに通いたい」ということを一度も言ったことがありません。早い話、子どもとの気持ちと親の気持ちとズレてしまっていることに気づいてなかったんです。

それに、私と長女は別の人間であり、私が良いと思ったからと言って長女もそう感じるかどうか、これはまったく別の問題であるという、ごく当たり前のことをさえ忘れてしまっていたんです。

経験も修学旅行の思い出もない。友だちもいないし、私の中学校生活は本当にダメだ」と、長女はいつも自分を責めていました。人目を気にして、家の近所を散歩することさえイヤがる時期もありましたし、電車にも乗れなくなりました。長女のそんな苦しみは、私はただただ聞いてあげることしかできませんでした。母親として、苦しむわが子に何もしてやれないことが本当に歯がゆかったです。

「何も変わらず そんなことはない」
自ら学校を探したりできる状態になかったため、私はいくつかピックアップし、「より学校らしい」と感じる学校を長女が選びました。「中学でできなかったことを高校でやりたい」という長女の願いに沿うように、週5日通学するコースに決めました。

あとは卒業を待つばかりですが、思うようにいかなかったことも多かったため、今も苦しんでいると思います。ただ、本人が決意してやってみた結果、学校には合わなかったことがわかっただけでも、この時間はけ

つしてむだではなかったと、いつか思うんじゃないかって思います。少しづつ元気になるって、長女が「〇したい」という要望を伝えてくれるようになりまし。ターニングポイントは「ライオンキングを観に行きたい」と言い出したときかなって思います。「ちょっと難しいんじゃない?」って私は思ったんですが、きちんと電車に乗り、鑑賞してきました。とても感動したらしく、笑顔で家へ帰ってきたんです。

また、長女の自己肯定感を高めることに躍起になっていたこともありました。スマホを見て笑っていたり、リビングで鼻歌を歌っている長女を見ると、母親として、やっぱりうれいんです。そういう時間を少しでも増やしてあげること、それが親である私にできることなのかなって思っています。(抄録)

娘の笑顔を増やすこと

今の私にできること
娘の笑顔を増やすこと

WEB版『不登校新聞』 連載も初回から読み返し可

- 連載「不登校きほんのき」(2011年)
- ◎連載タイトル一覧
 - 「学校との連絡、どこまで?」
 - 「不登校と卒業」
 - 「年末の過ごし方」
 - 「ゲームについて」
 - 「家庭内暴力への接し方」
 - 「リストカットの背景」
 - 「摂食障害」
 - 「昼夜逆転の向き合い方」
 - 「大学の不登校」
 - 「非行や夜遊び」
 - 「不登校と義務教育」[※]全23本

- 過去にはこんな連載も……
- WEB版ならいつでも何度でも読み返せます!!
- 「親は笑っていればヨシ!」(田口ランディ/作家)
 - 「ひきこもるキモチ」(石崎森人/ひきこもり経験者)
 - 「学校へ行けない僕のキモチ」(棚園正一/漫画家)
 - 「親のための不登校Q&A」(安藤ふみ/母親、親の会代表)
 - 「子ども若者にかかわる精神医学の基礎」(石川憲彦/精神科医)
 - 「孫の不登校」(奥地圭子/本紙代表理事)
 - 「家庭内暴力」(リレー執筆)
 - 「親の気持ち、子の思い」(青木悦/教育評論家)

- WEB版『不登校新聞』
- ・月2回発行(毎月1日、15日)
 - ・月額820円
 - ・クレジットカード決済のみ
 - ・読者登録後、最大2カ月無料
 - ・2006年までのバックナンバー閲覧可
 - ・「不登校新聞 マガジン」で検索可
- ◎お問い合わせは東京編集局まで
TEL 03-5963-5526 FAX 03-5963-5527
メール tokyo@futoko.org
- futoko.publishers.fm